

1. 適用対象事業所の概要

当社は、国内の4つの事業所および蘇州惠普聯電子有限公司を環境管理の管理組織と位置付け、管理組織ごとに事業活動や製品・サービス領域における環境マネジメントシステムの確立、運用管理、監視、改善活動に取り組み、継続的に環境パフォーマンスの向上に努めています。

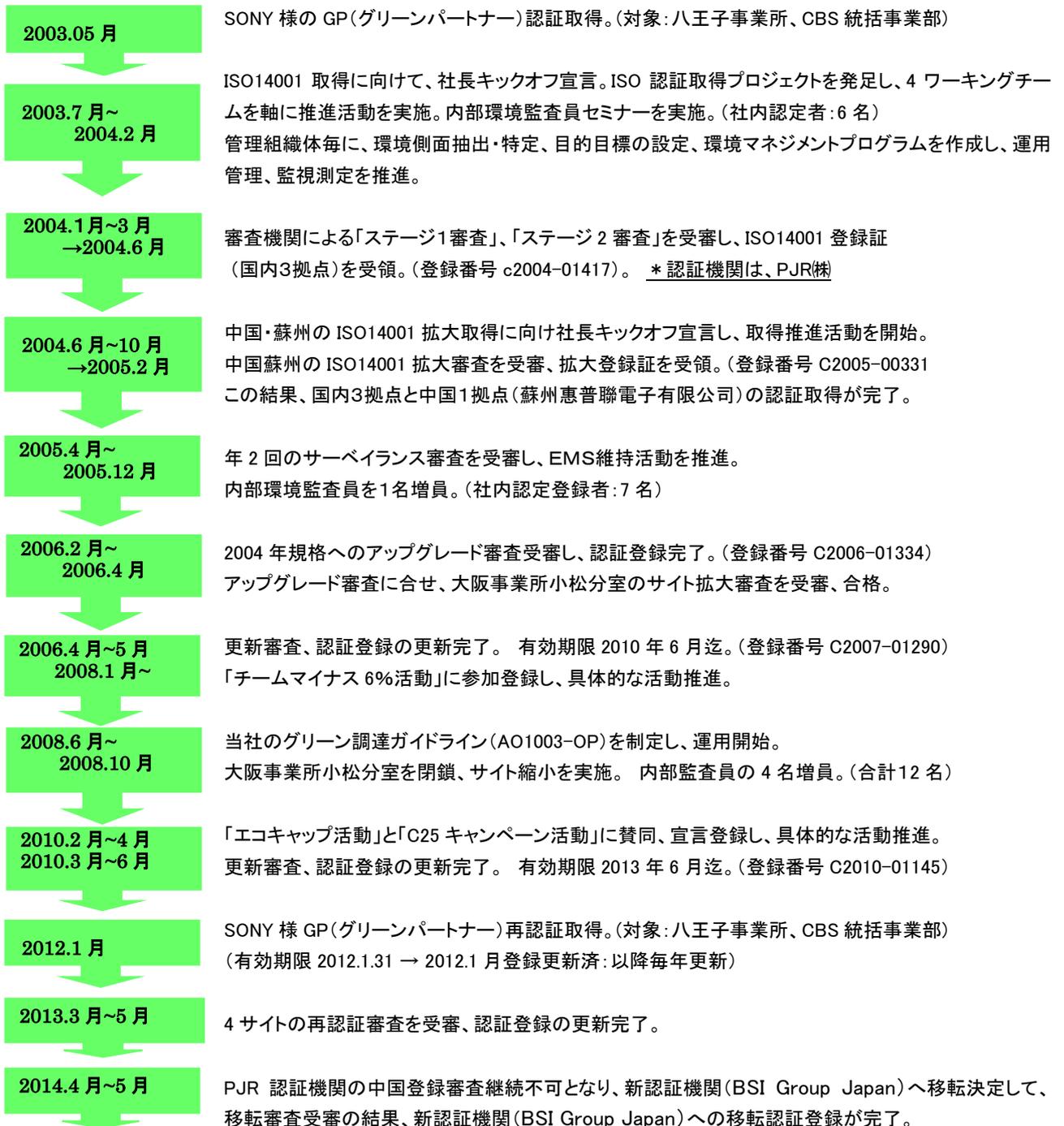
また、当該年度には外部審査機関である BSI Group Japan による ISO14001 のサーベイランス審査が実施されました。この審査は年に1回行われ、規定に基づいて実施されます。審査の結果、当社は「法規制・その他要求事項チェックシート」などで問題がないことが確認され、ISO14001 の認証が継続されています。

[適用事業所]

- a. 本社・八王子事業所(HHdiv) b. 入間事業所(IPlant) c. 大阪事業所(Odiv) d. 上野事業所(SSdiv)
- e. 蘇州惠普聯電子有限公司[中国江蘇省](SZE):

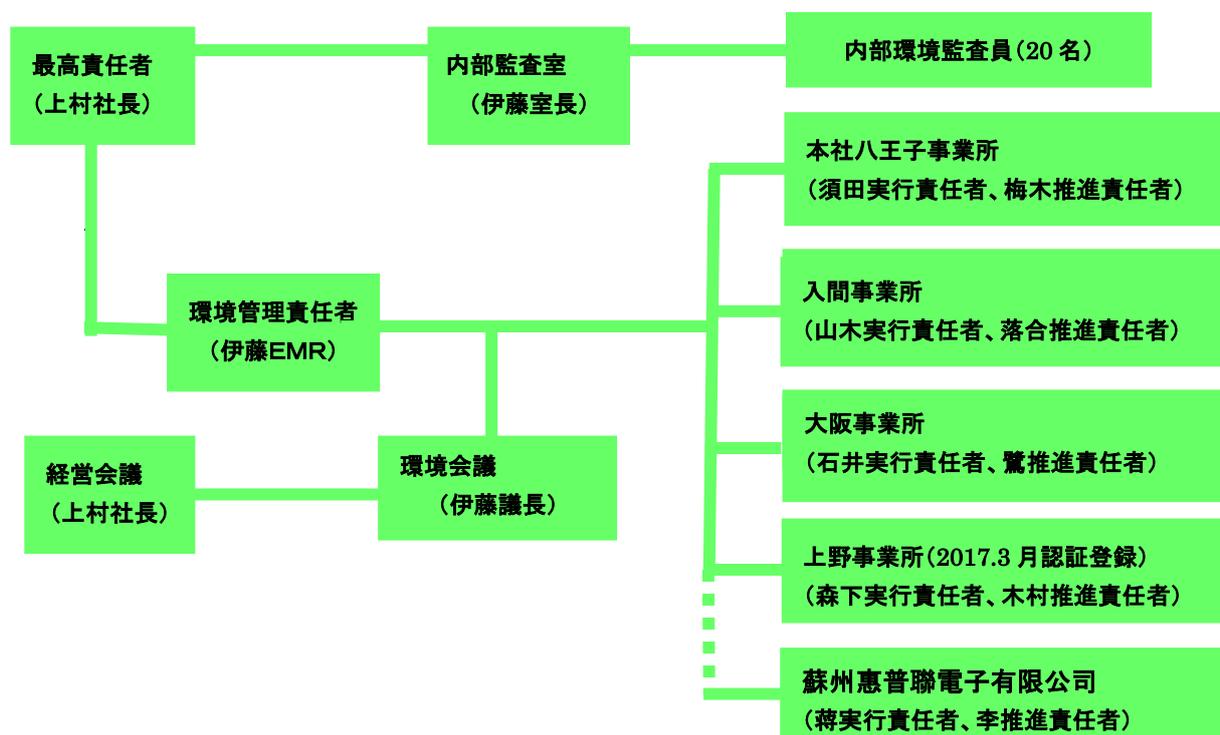
2. 環境保全への取組み

1) 環境活動の歩み





2) 環境管理組織(2022年度)



3) 環境方針(2022 年度)

環境方針

環境理念

私達は、地球環境保全が 21 世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務にむけ、積極的に貢献を行っていきます。

環境方針

1. 産業用コンピュータシステムに関する事業活動を通じ、省資源、省エネルギー、廃棄物の減量、有機溶剤消費の削減等を行い、環境負荷の軽減に努めます。
2. 環境配慮設計及びグリーン調達に取組み、有害物質の使用を避け、RoHS 適合製品の提供を推進(鉛フリー等)し、有益な環境側面の創出に努めます。
3. 継続的な環境改善と汚染の予防に努めます。
4. 法規制、顧客要求・その他要求事項を順守し、環境保護へのコミットメントを推進します。
5. 環境目的、目標を設定、運用管理、監視・測定し、必要に応じて見直しを実施します。環境パフォーマンス向上のため、定期的なレビューを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善活動を推進します。
6. この方針は文書化し、実行維持し、全従業員と当社のために働く人に周知徹底します。また、社外からの人々の要求に対して開示します。

制定 2022 年 04 月 01 日

エブレン株式会社

代表取締役社長 上村 正人

4) 方針、目的目標及び活動実績の概要

2022 年度の ISO14001(EMS)活動では、2015 年版規格に対する適合性の確保と運用の定着に注力し、環境パフォーマンスの向上に取り組みました。特に、「組織の状況、リーダーシップ、リスクおよび機会への対応」という 2015 年版要求事項に意識的に取り組み、その定着を継続しています。

推進のポイントは、従来同様に法規制およびその他の要求事項への順守活動、環境に配慮した製品の提供や有害物質の削減・排除による RoHS 指令への適合、そして快適な職場環境の改善、環境負荷の軽減・減量・維持管理活動です。

当社も、今年度も環境省の「COOL CHOICE」活動に参加し、引き続き「スーパークールビズ活動」と「ウォームビズ活動」を推進し、電力使用量と CO2 排出量の削減に努めました。また、本期においても電気料金の抑制に取り組み、2007 年比の成果を得ることができました。

さらに、八王子事業所と入間事業所では、全照明を LED 照明に交換することで大幅な電力削減を実現しました。八王子事業所では月平均 4,100kWh、入間事業所では月平均 900kWh の電力削減を達成しました。工場稼働率の上昇に伴い売上高も増加していますが、3 月の電力消費量は前年同月比で減少(-7.8%)しました。ただし、燃料調整費が急増し、電気料金は 3 月単月で増加(16.9%:激変緩和措置を含む)しています。電力使用量は季節変動やエアコンの使用率に大きく影響されますが、引き続き節電活動を続けます。

本期も滞留資産の傾向管理と分析を行い、発生抑制の改善に取り組みました。また、廃棄物の削減(3R: Reduce、Reuse、Recycle)を継続的に行い、一部は有価物として売却し良好な成果を得ました。引き続き、重要な環境側面およびリスクを踏まえ、有益な環境側面の創出活動を中心とした環境管理に取り組み、経営方針の一環として事業活動との統合を図ります。さらに、環境管理費用の削減と環境保全活動の推進に努めます。

5) 2022 年度の実績評価

① 改善推進テーマ

推進テーマ	管理組織体	目標値	実績値	達成率	判定
有益な工場環境の実現 (モデル工場)	HHdiv	8.0 件の改善実行[5S 維持管理]	8 件改善完了	100%	○
	HHdiv	4.0 件の改善実行[安全環境配慮製造ライン]	5 件改善完了	125%	○
	HHdiv	24.0 件の改善実行[変種変量製造ライン]	104 件改善完了	433%	○
	IPlant	8.0 件の改善実行[機能的安全快適な工場環境実現]	8 件改善完了	100%	○
	Odiv	24 件の改善実行[社内資産活用し効率的な作業環境実現]	25 件改善完了	104%	○
	Odiv	12 件の改善実行[3T 実施と継続]	12 件改善完了	100%	○
Odiv	12 件の改善実行[5S 実施と継続]	13 件改善完了	108%	○	
RoHS 対応製品の供給	SZE	部品 24 件以上環境負荷物質の含有物調査]	29 件完了	121%	○
不良資産の発生抑制	SSdiv	6 件の改善実行[資材調達方式改善]	8 件改善完了	133%	○
仕損じ撲滅活動	HHdiv	1,500,000 円以下	1,574,562 円	105%	△
	IPlant	240,000 円以下	402,920 円	168%	×
	Odiv	660,000 円以下	473,223 円	72%	○
	SSdiv	336,000 円以下	227,200 円	68%	○
	SZE	24,000 円以下	13,177 円	55%	○

② 継続監視テーマ

推進テーマ	管理組織体	監視基準値(125%)	前年実績値	実績値	前年対比率	判定
資源枯渇抑制 (電力使用量)	HHdiv	204,735kWh 以下	163,788kWh	145,696kWh	89.0%	○
	IPlant	84,345kWh 以下	67,476kWh	68,282kWh	101.2%	△
	Odiv	140,549kWh 以下	112,439kWh	115,179kWh	102.4%	△
	SSdiv	52,439kWh 以下	41,951kWh	36,933kWh	88.0%	○
	SZE	17,533kWh 以下	14,026kWh	11,734kWh	83.7%	○
資源枯渇抑制 (最大需要電力) デマンド適用値(更新直前) /前年同月までのMAX値/ 当月までのMAX値	HHdiv	98kW 以下	89kW	98kW	110.1%	△
	IPlant	48kW 以下	56kW	48kW	85.7%	○
	Odiv	102kW 以下	95kW	102kW	107.4%	△
	SSdiv	95kW 以下	109kW	100kW	91.7%	○
RoHS 対応製品の供給(鉛 フリー化推進)	HHdiv	13.80kg 以下	11.04kg	7.29kg	66.1%	○
	Odiv	0.00kg 以下	0.00kg	2.00kg	#DIV/0!	×
資源枯渇抑制 (ガソリン:燃費)	HHdiv	12.4km/ℓ 以上	15.5km/ℓ	19.4km/ℓ	125.1%	○
	IPlant	7.6km/ℓ 以上	9.5km/ℓ	8.6km/ℓ	90.5%	△
	Odiv	13.2km/ℓ 以上	16.6km/ℓ	16.8km/ℓ	101.3%	○
	Odiv(トラック)	8.1km/ℓ 以上	10.1km/ℓ	9.5km/ℓ	94.2%	△
資源枯渇抑制 (用紙)	HHdiv	361,250 枚以下	289,000 枚	243,500 枚	95.5%	○
	Odiv	-	-	100,000 枚	#DIV/0!	-
	SSdiv	11,250 枚以下	9,000 枚	14,000 枚	53.6%	○
	SZE	28,125 枚以下	22,500 枚	23,000 枚	106.5%	△
資源枯渇抑制 (水道)	HHdiv	439 m ³ 以下	351 m ³	333 m ³	94.9%	○
	IPlant	160 m ³ 以下	128 m ³	121 m ³	94.5%	○
	Odiv	348 m ³ 以下	278 m ³	280 m ³	100.7%	△
	SSdiv	151 m ³ 以下	121 m ³	122 m ³	100.4%	△
	SZE	178 m ³ 以下	142 m ³	172 m ³	121.0%	△
資源枯渇抑制 (廃棄物、有価物)	HHdiv(一般)	525kg 以下	420kg	450kg	107.1%	△
	IPlant(一般)	288kg 以下	230kg	230kg	100.0%	○
	Odiv(一般)	250kg 以下	200kg	410kg	205.0%	×
	SSdiv(一般)	186kg 以下	149kg	132kg	88.7%	○

HHdiv(産業)	7,034kg 以下	5,628kg	5,470kg	97.2%	○
IPlant(産業)	4,429kg 以下	3,543kg	1,930kg	54.5%	○
Odiv(産業)	4,788kg 以下	3,830kg	4,110kg	107.3%	△
SSdiv(産業)	0kg 以下	0kg	0kg	-	○
Odiv(タンホール)	6,275kg 以下	5,020kg	4,090kg	81.5%	○
SZE(産廃)	12kg 以下	9kg	16kg	166.3%	×
HHdiv(有価)	-	2,932kg	1,194kg	40.7%	-
IPlant(有価)	-	0kg	180kg	-	-
Odiv(有価)	-	780kg	330kg	42.3%	-
SSdiv(有価)	-	0kg	0kg	-	-
SZE(有価)	-	1,233kg	1,419kg	115.1%	-

③電力使用量とCO₂削減成果(スーパーカールビズ活動/ウォームビズ活動、2007年比)

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	国内計	SZE	全社計
削減電力量(kWh)	92,772	74,472	49,606	15,917	232,767	11,527	244,294
削減経費(円) *1	2,942,895	2,362,385	1,573,592	504,916	7,383,788	365,657	7,749,445
削減CO ₂ (Kg) *2	41,933	33,661	22,422	7,194	105,211	5,210	110,421

*1: 平均電気料金は、31.7 円/ kWh

*2: CO₂ 排出係数は、0.452kg-CO₂/kWh

- ④前年(2021年度)比、電気使用量の削減成果 = 各事業部共に生産量増加に伴う電力量の増加傾向にある。ただし、今年度は八王子事業所と入間事業所の照明をすべて LED 照明に切り替えることで、電力の節約に取り組んでいます。八王子事業所では月平均 4,100kWh、入間事業所では月平均 900kWh の電力削減を達成しました。

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	SZE	全社計
2021年度電気使用量(kWh)	163,788	67,476	112,439	41,951	14,026	399,680
2022年度電気使用量(kWh)	145,696	68,282	115,179	36,933	11,734	377,824
前期比抑制電気使用量(kWh)	18,092	-806	-2,740	5,018	2,292	21,856
前期比電気使用量抑制率(%)	11.0%	-1.2%	-2.4%	12.0%	16.3%	5.5%

⑤前年(2021年度)比、電気料金の削減成果 = 燃料費調整単価が高騰し、電気料金は25%以上の大幅上昇

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	国内計
2021年電気料金(円)	3,969,974	1,767,629	2,926,878	948,579	9,613,060
2022年電気料金(円)	4,941,434	2,281,482	3,584,163	1,178,177	11,985,256
電気料金抑制金額(円)	-971,460	-513,853	-657,285	-229,599	-2,372,197
電気料金抑制率(%)	-24.5%	-29.1%	-22.5%	-24.2%	-24.7%

⑥3R活動の成果

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	全社計
全体排出量(kg)	7114	3354	4850	131.71	15,450
有価物分別量(kg)	1,194	180.0	330	0.0	1,286
有価物割合(%)	16.8%	5.4%	6.8%	0.0%	8.3%
有償換金(円)	51,888	20,600	10,005	0	82,493

⑦エコキャップ収集活動の成果

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	全社計
収集量(Kg)	12.0	6.9	6.9	25.8
収集量(個数)	5172.9	2967.0	2967.0	11106.9
ワクチン:ポリオ(人分)	6.0	3.5	3.5	12.9
削減CO ₂ (Kg)	37.9	21.7	21.7	81.4

⑧CO₂排出量の年度別推移全体排出量(t- CO₂)

電力+ガソリン	46期	47期	48期	49期	50期
HHdiv	94	87	83	83	77
IPlant	37	35	35	32	32
Odiv	66	58	52	56	59
SSdiv	18	18	17	19	17
全社排出量	215	198	187	190	184

6) ISO14001:外部審査と内部監査の結果

審査、監査の区別	外部審査	内部監査						
		国内4部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	SZE	SONY-GP
対象部門	国内4部門							
監査期日	2023.03	2022.10	2022.12	2022.11	2023.01	2022.11	2023.02	
監査結果(不適合/要観察 改善機会コメント/Good point)	1件/0件 8件/5件	0件/0件 1件/2件	0件/0件 2件/1件	0件/1件 1件/1件	0件/0件 0件/1件	0件/0件 0件/0件	0件/0件 1件/0件	

7) 2023年度の主な取り組み事項

- a) 2023年度の環境マネジメントシステム(EMS)および環境活動では、運用管理の軽減化とスマートな推進に引き続き力を注ぎます。
- b) 賛同した“COOL CHOICE”や各種エコ活動を推進します。(スーパークールビズ活動、ウォームビズ活動の推進)
- c) 本社八王子地区における「モデル工場化」活動を継続し、より具体的な目標と施策、到達点を明確にし、その成果を他の事業所に有効に展開し、環境品質のパフォーマンス向上に取り組みます。
- d) 資源の枯渇に注目し、滞留資産の発生を抑制し、生産財の無駄な廃棄を監視・改善する活動を推進します。
- e) 環境管理費用の管理方法に関する調査、情報収集、および低減活動を継続的に推進します。
その低減活動として、第51期以降の外部審査は、ISO9001、ISO14001を同時に審査する統合審査への移行を進めます。

以上